

【気象変動に対応した丈夫なイネづくり】  
**飽水管理を徹底し適期に収穫！**

巻農業普及指導センター

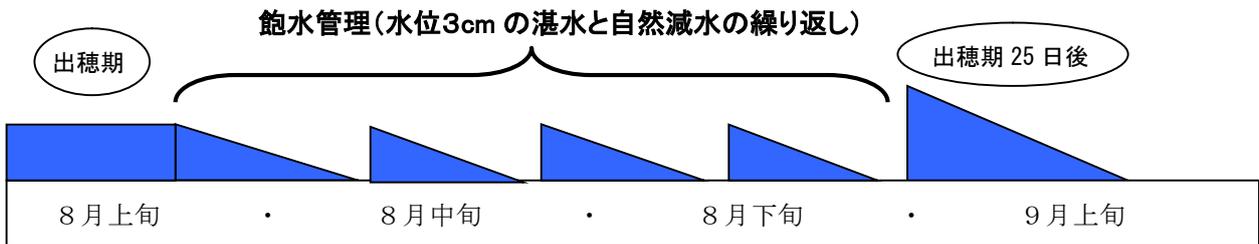
- ◎ 8月は引き続き気温が高く推移する確率が高いと予報されています。**出穂期 25 日後まで飽水管理を徹底**しましょう。
- ◎ 出穂期は、早生は平年比 3 日、中生は 1 日早く、**収穫適期も早まる見込み**です。
- ◎ 特に、極早生・早生品種は出穂期以降高温下で登熟してきたことから、更に早まる見込みです。**籾の黄化状況を確認し、適期に刈り取り**ましょう。

**1 登熟向上を促す水管理 ～飽水管理の徹底、早期の完全落水は厳禁！～**

- (1) 飽水管理 : 出穂期 25 日後 (高温が続く場合は出穂期 30 日後) まで、確実に実施する。
- (2) 最終かん水 : こしいぶきは 8 月 17 日頃まで、コシヒカリでは 8 月 28 日頃まで飽水管理とし、最終通水日には確実に湛水する。
- (3) 異常気象 : **異常高温や強風・フェーン等が予想される時は、事前に湛水し**稲体からの急激な蒸散による障害の発生を防止する。

**飽水管理** : 水尻を閉じて湛水し、自然に水が減って田面に水がなくなり、溝や足跡の底に水が溜まっている箇所が見られるようになったら、再び湛水する管理

【コシヒカリの水管理のイメージ】



**2 適期収穫 ～刈遅れに注意 早めに収穫準備を～**

- ・ ほ場ごとの出穂期を基に、下表及び収穫期予想積算温度表 (別表) から収穫開始適期のめやすを確認する。
- ・ めやすの頃になったら、ほ場ごとに次ページの「3 収穫適期のめやす」に基づき、**籾の黄化状況を確認し、実際の収穫開始適期を判断**する。

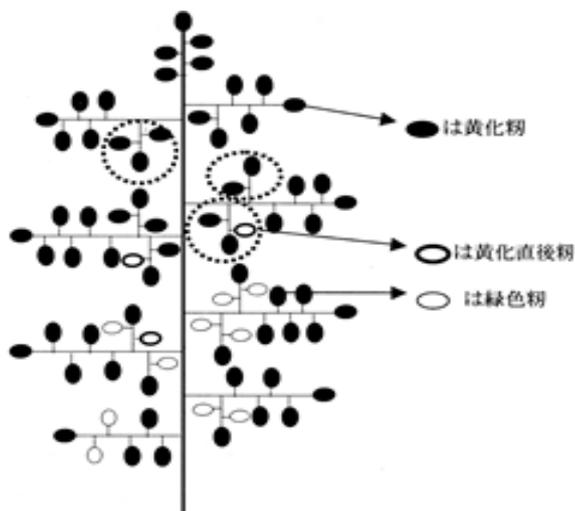
【主要品種の積算温度による収穫期のめやす】

8月11日現在

種別	品種名	出穂期 ※2	積算温度 (°C)	収穫開始適期	備考	
うるち	ゆきん子舞 ※1	7/21	925	8/25～	・ 収穫開始適期は出穂期からの積算温度で算出。	
	こしいぶき ※1	7/23	925	8/27～		
	コシヒカリ	連休植	8/3	1000	9/12～	・ 積算温度はアメダス巻地点の測定値の本年値 (8/11 まで) と平年値 (8/12 以降) を使用した。
		5月10日植	8/6		9/16～	
もち	わたぼうし ※1	7/21	925	8/25～		
	こがねもち	7/29	1000	9/6～		
酒	五百万石 ※1	7/18	925	8/22～		

※1 現在高温下で登熟しているため、積算温度を通常より 50°C 早めている。  
 ※2 管内の平均出穂日である。

### 3 収穫適期のめやす ～必ず黄化籾割合を確認し、適期に収穫しましょう～



#### [収穫適期のめやす～黄化籾割合 85～90%]

- ・上位3～4本目の一次枝梗に着生する2次枝梗籾が黄化した時が収穫適期

\*一次枝梗が9本程度の平均的な穂を10穂程度調査し、8穂以上が該当すれば収穫適期。

### 4 適正な乾燥 ～張込時の水分を確認してから作業開始！～

- ・食味低下や胴割粒の発生防止のため、張り込み時の水分に応じた適正な送風温度に設定。

張込時籾水分	28%	24%	18%以下
乾燥温度	40℃以下	50℃以下	昼間に通風循環後、半日程度貯留して夜間に加温乾燥

- ・玄米水分量を15.0%に仕上げる。(乾燥中の水分測定をこまめに行う)
- ・張込量が少ない場合は、乾燥が早めに仕上がるので過乾燥に注意する。
- ・青米等の混入が多い場合は、乾燥終了後に水分の戻りがあるため、仕上げ水分に注意する。
- ・刈遅れた場合や成熟期頃にフェーンで乾燥した日が続いた場合は、立毛胴割れが予想されるので、乾燥速度は、毎時乾減水分0.5%以下になるよう送風温度を低く設定する。乾燥機に2段乾燥機能や休止乾燥機能が備わっている場合は、これを活用する。

[乾燥後の水分変化のめやす (富山農試)]

100粒中の 青米・くず米	5粒以下	0.5%乾燥が進む
	6～11粒	ほとんど変わらない
	11粒以下	0.5%水分がもどる

### 5 ていねいな調製 ～整粒歩合を高め、全量1等米に仕上げよう～

- ・籾すりは、肌ずれ防止のため、籾の温度が常温近くまで下がってから行う。
- ・ゴムロール間隔は0.8～1.2mmを基準に脱ぶ率が80～85%になるように調節する。
- ・ふるい目は1.85mm(五百万石は2.0mm)以上を使用し、流量調節を適正にしてくず米を完全に除去する。
- ・色彩選別機を活用し、白未熟粒やカメムシ斑点米等の除去につとめ整粒歩合70%以上に仕上げる。

### 6 その他

- ・収穫前に、クサネム等の雑草をほ場から除去し、玄米への雑草種子の混入を防止する。
- ・異品種等の混入を避けるため、コンバイン、乾燥機、調製機等の清掃を徹底する。
- ・始業前の機械点検を必ず実施するとともに、事故の防止に向けて、安全な作業を徹底する。

**熱中症及び農作業事故に注意しましょう!**